

令和6年度行政評価 施策評価シート （令和5年度実績）

施策名 快適で住みやすいまちづくり

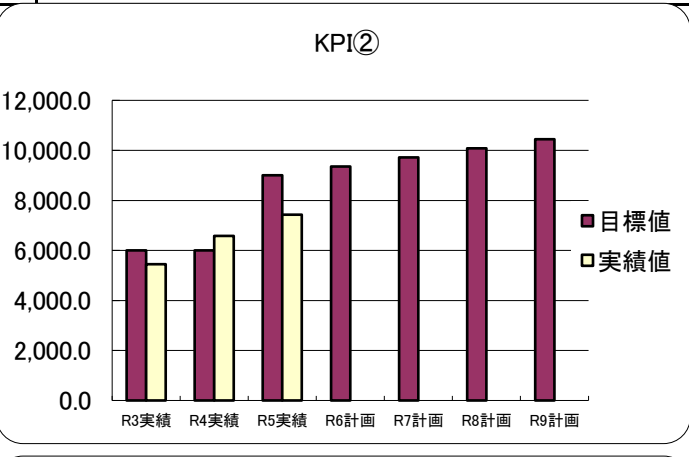
				施策コード	5060101			
1. 施策の担当								
主管課		都市整備部 道路公園課						
関係課								
2. 総合計画における位置づけ								
総合計画	政策	第6章 快適で住みやすいまちづくり（快適・憩い・生活基盤）			節	第1節 道路・交通		
	施策	快適で住みやすいまちづくり						
基本方針								
・ 鉄道や路線バス等の公共交通事業者やコミュニティバスが商業施設と連携して、利用者ニーズに応じた交通ネットワークの充実を図ります。 ・ 誰もが利用しやすい交通環境づくりをめざします。								
現況と課題								
・ 超高齢社会の到来や訪日外国人旅行者の増加により、誰でも手軽に利用でき、かつ利便性の高い交通手段が求められています。 ・ 人にも地球環境にも優しい公共交通の重要性が見直されています。								
施策目標								
対象（誰を、何を、どこを）								
市民・利用者								
意図（どのような状態にしたいのか）								
鉄道とバスの連携強化により、利便性の確保を図り、市民・利用者にとって、身近で使いやすい交通手段としてゆきます。								
3. 市民ニーズ								
		R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11
満足度（偏差値）		51.0						
重要度（偏差値）		58.5						
4. 施策にかかるコスト								
	単位	R4決算	R5決算					
コストの内訳	人件費	千円	6,532	6,692				
	事業費		57,811	59,771				
	フルコスト		64,343	66,463				
財源内訳	国庫支出金	千円	0	0				
	府支出金		0	0				
	市債		0	0				
	その他		0	0				
	一般財源1（＝フルコストー特定財源）		64,343	66,463				
	一般財源2（＝直接事業費ー特定財源）		57,811	59,771				
5. 施策の重要業績成果指標（KPI）								
① KPI 1		コミュニティバスの利用者数（延べ数）						
項目	R3実績	R4実績	R5実績	R6計画	R7計画	R8計画	R9計画	
目標値	161,000.0	163,000.0	200,000.0	205,000.0	210,000.0	215,000.0	220,000.0	
実績値	150,281.0	168,762.0	176,649.0					
達成度	93.34	103.53	88.32					
KPI設定の根拠		KPI目標数値の設定根拠		目標達成・未達成の理由・背景				
この人数が増えているかを把握することで、地域住民のニーズに合致した事業展開ができていくかわかる。		令和10年度目標は、高齢化の進捗を背景に、運賃無料化により乗客数が増えた実績を踏まえて、230,000人とした。		高齢化の進捗とともに、平成27年10月、運賃無料化開始、及び、令和元年5月、西回り（田尻回り）新設。令和2年度の新型コロナウイルス感染症による緊急事態宣言により利用者が減少したが、令和5年度は令和4年度に比べ利用者が7,707名増加しており回復傾向にある。				

② KPI 2		観光周遊バスの利用者数（延べ数）					
項目	R3実績	R4実績	R5実績	R6計画	R7計画	R8計画	R9計画
目標値	6,000.0	6,000.0	9,000.0	9,360.0	9,720.0	10,080.0	10,440.0
実績値	5,447.0	6,579.0	7,427.0				
達成度	90.78	109.65	82.52				
KPI設定の根拠		KPI目標数値の設定根拠		目標達成・未達成の理由・背景			
平成27年12月より運行開始した観光周遊バスの年間利用者数を把握することにより、市内観光スポットを訪れる観光客や市内周遊する市民の交通手段の利便性向上に同バス事業が寄与したかを測ることができる。		令和10年度の目標は、利用促進を図りつつも、人口減少・少子高齢化を背景に、日祝のみの運行便数等を鑑み、年間利用者の実績から20%程度増の10,800人に設定した。		日曜・祝日のみ運行しており、主要鉄道駅と市内観光を巡るルート設定となっている。令和2年度の新型コロナウイルス感染症による緊急事態宣言により利用者が減少したが、令和5年度は令和4年度に比べ利用者が848名増加しており回復傾向にある。			

③ KPI 3							
項目	R3実績	R4実績	R5実績	R6計画	R7計画	R8計画	R9計画
目標値							
実績値							
達成度							
KPI設定の根拠		KPI目標数値の設定根拠		目標達成・未達成の理由・背景			

④ KPI 4							
項目	R3実績	R4実績	R5実績	R6計画	R7計画	R8計画	R9計画
目標値							
実績値							
達成度							
KPI設定の根拠		KPI目標数値の設定根拠		目標達成・未達成の理由・背景			

⑤ KPI 5							
項目	R3実績	R4実績	R5実績	R6計画	R7計画	R8計画	R9計画
目標値							
実績値							
達成度							
KPI設定の根拠		KPI目標数値の設定根拠		目標達成・未達成の理由・背景			



図表



6. 施策の事後評価			
一次評価 (担当課による評価)	判定項目	評価点	評価理由、今後の方向性等
	施策の成果レベル (過去の推移、周辺市との比較なども含む)	(4点中) 2	平成24年度「泉佐野駅西口前」バス停新設。27年度コミバス運賃の無料化。28年度路線バス運賃助成対象を65歳以上に引き下げ。29年度路線バス運賃助成対象地域拡大、及び「葵町南」バス停新設。令和元年5月田尻回りルートの新設。
	施策に対する市民ニーズ	(3点中) 2	満足度が平成24年度41.8から平成30年度45.1と上昇した。運行地域の拡大、運行時間帯の拡大、双方向での運行等の要望がある。
	施策を取り巻く状況 (法令等の動向、国・府の政策の動向、社会潮流など)	(3点中) 3	高齢者等の生活を支える交通手段を確保。高齢者による重大事故の未然防止のため、運転免許返納後の自家用車の代替となる交通手段を提供。
	合計点	(10点中) 7点	
総合評価		B	市民生活に密着した交通手段として、また交通弱者の交通手段の確保、公共交通機関空白地域の解消を図る観点から、重要な役割を担っている。
二次評価（政策推進課・行財政管理課による評価）		B	満足度上昇も45.1→51.0となっており、運賃無料化など事業費の増と連動しているところ、引き続き水準維持に努めること。
三次評価（理事者による評価） ※二次評価と異なる場合など記載		B	

7. 施策を構成する事務事業							
事務事業			R5年度決算額			R6年度予算	一次評価
	予算コード	事務事業名	人件費	事業費	一般財源		
1	01009700	コミュニティバス事業	3,999	58,788	58,788	0	B
2	01009710	路線バス運賃助成事業	2,693	983	983	0	B
合計			6,692	59,771	59,771	0	

令和6年度行政評価 事務事業評価シート(令和5年度実績)

事務事業コード	060101010	予算コード	01009700	従事人員(人)	投入コスト(千円)	評価	評価点	一次評価	B	
事務事業名	コミュニティバス事業			正規職員数	0.49	国庫支出金	0	公共交通の確保は市町村の役割が重要であり、今後も市民の交通手段としてニーズにあったバス運行が求められる。平成27年10月から運賃の無料化、平成27年12月より日曜日及び祝日に観光周遊バスを運行。令和元年5月より田尻町と共同で西回りを運行。令和5年度から地域交通の現状や課題、ニーズ把握の後、地域公共交通計画を策定し、デマンド交通導入の可否を検討するための実証実験を行う。		
担当課	道路公園課			嘱託職員数	0	府支出金	0			
根拠法令等	市単独事業			臨時職員数	0	市債	0	効率性		B
	■要綱・要領			歳出(千円)	0	その他	0			
	泉佐野市コミュニティバス運行経費補助金要綱			人件費総額	3,999	一般財源	62,787	妥当性		A
						減価償却費	0			
						事業費	58,788	受益者負担		該当なし
事務事業類型	運営事業			フルコスト(千円)	62,787	緊急性	A	事務事業実施内容		
実施手法	補助・負担			市民1人当たりコスト(円)	634			利用人数 183,896人（令和4年度利用者数175,341人より4.9%増）		
対象				活動指標	R5実績	公的関与	A			
不特定の市民				対象数		運行便数(コミュニティバス)				8,560.0
公共交通機関として、どなたでもご利用になれますが、特に、高齢者や障害をお持ちの方、いわゆる交通弱者の方や、観光目的の来訪者				運行便数(観光周遊バス)	630.0	実施主体・委託化	C			
事業の内容						他の事務事業との関連				C
路線バスが運行していない地域の交通手段を確保するため、泉佐野駅を起点として市内主要公共施設などを巡回するコミュニティバスを「北回り」「中回り」「南回り」「西回り」の4コースで運行しています。また、日曜日、祝日には、観光客が市内の観光地及び商業施設を訪れる交通手段として観光周遊バスを運行しています。				成果指標	R5実績	透明性	C			
				年間利用人数(コミュニティバス)	176,469.0					
				年間利用人数(観光周遊バス)	7,427.0	財政健全化計画	該当なし			
						財政健全化の取組	該当なし			
				コスト指標	R5実績	改革改善プラン達成度	該当なし			
事業の目的				利用人数一人当たりの事業費	341.0					
路線バスが運行していない地域や市内主要公共施設などを結ぶ巡回バスを運行することにより、市内の交通利便性の向上、公共施設の利用促進を図る。また、泉佐野市を訪れる観光客が市内を周遊するための交通手段の確保。										

事務事業コード	060101020	予算コード	01009710	従事人員(人)	投入コスト(千円)	評価	評価点	一次評価	B	
事務事業名	路線バス運賃助成事業			正規職員数 0.33	国庫支出金 0	有効性	C	令和5年度に泉佐野全体の地域交通の現状、課題とニーズの把握、改善を検討し、令和6年度地域交通計画の策定を目指す。		
担当課	道路公園課			嘱託職員数 0	府支出金 0					
根拠法令等	市単独事業			臨時職員数 0	市債 0	効率性	D			
	■要綱・要領			歳出(千円)	その他 0					
	大木・土丸・東上地区路線バス運賃助成金交付要綱			人件費総額 2,693	一般財源 3,676	妥当性	A			
					減価償却費 0					
					事業費 983	受益者負担	A			
事務事業類型	運営事業			フルコスト(千円)	3,676	緊急性	該当なし	事務事業実施内容		
実施手法	市直営			市民1人当りコスト(円)	37			大木地区 対象者462人 土丸地区 対象者314人 東上地区 対象者586人		
対象				活動指標	R5実績	公的関与	A			
特定の市民		対象数	1,362人	対象人数	1,362.0					
大木・土丸・東上地区に住所（在宅者）を有する満65歳以上の方				乗車券配布実施回数	2.0	実施主体・委託化	A			
事業の内容										
大木・土丸・東上地区に住所（在宅者）を有する満65歳以上の方を対象に、路線バス（犬鳴線）を利用する際、かかる運賃の一部を助成する。						他の事務事業との関連	B			
				成果指標	R5実績	透明性	C			
				配布枚数	24,516.0					
				使用枚数	4,032.0	財政健全化計画	該当なし			
						財政健全化の取組	該当なし			
				コスト指標	R5実績	改革改善プラン達成度	該当なし			
				事業の目的						乗車券引換者一人当たりの経費
運賃無料のコミュニティバスの運行がなく、有料の路線バスの利用が必要な大木、土丸、日根野東上の高齢者にバス運賃を補助することで、運賃負担の軽減と外出機会の確保を図ります。										